高体連会報
青春の躍動
発行
島根県高等学校体育連盟
発行人◇井筒秀明　編集◇高体連研究部
印刷◇㈱松本印刷

平成二十六年度を振り返って

島根県高等学校体育連盟
理事長　井筒秀明

平成二十六年度も終わりを告げようとしています。生徒、教職員および関係者の皆様のご協力により、滞りなく諸事業が遂行できましたことを心より感謝申し上げます。

この一年、全国高体連は、かねてから懸案事項となっていた案件について、一定の方向性を示しました。一つは体罰根絶にむけた取り組みです。今後も県高体連としては、あらゆる機会を通してその内容を関係者に周知していきます。もう一つは、平成二十四年度から協議をされてきたインターハイ開催に係る財源問題です。開催地実行委員会の負担を少しでも減らすために、平成二十七年度から全国高校総体の参加料を値上げすることが決定しました。

さて、県高体連の取り組みとしては、平成二十八年度に開催される全国高等学校総合体育大会（二〇一六情熱疾走 中国総体）まであと二年数か月となった昨年四月に島根県準備会事務局を置き、七月には準備会総会を開催しました。県高体連としては、高校生活動に主眼を置いて準備を進めています。今後は、現在決定している県内五地区（各地区推進委員会）を中心に、地元高校生が競技種目別大会の運営ボランティアをはじめ、広報・おもてなし活動等を通じて、創意工夫された活動が展開できるように支援していきます。

今年度の各競技の大会成績を総括すると、「煌めく青春 南関東総体二〇一四」では、六競技十一種目が八位入賞を果たしました。入賞競技・種目数では昨年を下回りましたが、陸上競技において、青山聖佳（松江商業二年）が山陰勢初となる女子二〇〇m・四〇〇mの短距離二冠に輝き、また、澤慎吾（大社三年）は棒高跳で高校日本歴代五位の記録（五m二五）で頂点に立つ大活躍をみせてくれました。長崎国体では、水泳（飛板飛込）で須山晴貴（松徳学院二年）がインターハイの雪辱を果たし、念願の優勝に輝きました。また、なぎなた少年団会においては、島根（出雲北陵）はチーム一丸となった戦いで見事に準優勝を獲得しました。九月に中国仁川で行われた第十七回アジア大会陸上競技に、日本代表として青山聖佳が出場しました。女子四〇〇mでは、予選で自己記録を更新する日本歴代四位の記録（五二秒九九）をマークし五位入賞。一六〇〇mリレーでは、第一走として日本チームの銀メダルに大きく貢献しました。また、十二月に香港で行われたアジアカデ・ジュニア柔道選手権大会に日本代表として出場した佐々木健志（平田三年）は、八十一㎏級で見事優勝に輝きました。

今後も、高校生アスリートの活躍が県民の皆さんに元気と勇気を与えられるよう、各専門部をはじめ関係各位のご支援をお願いいたします。

栄えある全国選手権・選抜大会出場!!

全国大会に参加して

出雲高校　弓道部　石飛萌恵

「写真提供：㈱PS戸井松」

「写真提供：㈱PS戸井松」

全国大会を通して、「人は一人で何かを成し遂げることはできない」ということを学びました。改めて仲間や、周りの人の協力があることや、自分の力が発揮できるのだということを学び、感謝の気持ちがいっぱいです。今大会の参加にあたってもチームメイトをはじめ、部員、先生方、家族などの多くの方の応援のおかげで、無事に当日を迎えることができ、この五位入賞という結果が残せたのだと思います。

全国大会を迎えるまでの練習においては、当たり前にやり、その上での＋αを求め、「一本一本」を目指し、普段の練習から部員全員で「本番」に近づけた練習、空気を作るということを心がけました。緊張する本番を想定し、「緻密で正確な練習」に重点を置き、特に「一本目勝負」にこだわりました。一日の練習の中での一本目と、とにかく、集中し、精度を高める練習をしてきました。去年までは勝ちきれませんでした。練習の繰り返しと県内外大会等を通して、全国に向けての気持ちを高めていきました。

そして、全国大会では「出雲の射」を担々四本積み重ねるという意思で臨みました。実際に本番当日は、周囲の応援もあり、予選とができました。しかし、決勝トーナメントになると緊張や不安から自分たちの納得いく射ができず、悔しい思いもしました。日本一道のりはまだ遠く、自分たちの技術や精神的な未熟さを知り、課題が見つかり、もう一度、日本一に向かっていこうという気持ちが強くなりました。

今大会は、充分に満足できない部分もありましたが多くの人に支えられがあり、全国の舞台で戦うという貴重な体験をすることができました。これからは、インターハイに向かって、県総体を見据え、緊張の中でもできる真の強いチームを作っていきたいと思います。そのためにも、もう一度基本に返り、この大会を通じて学んだ感謝の気持ちを忘れず、人間力を高めると共に、技術の向上に努め、日々精進して参りたいと思います。

全国大会に参加して

益田高校　弓道部　糸賀妃那子

「写真提供：㈱PS戸井松」

私は、鹿児島で行われた全国高校弓道選抜大会に、女子個人で出場しました。

大会前はなかなか調子が上がらず、不安でいっぱいな日もありましたが、大会では六位に入賞することができ、嬉しく思っています。応援してくださった方々、お祝いの言葉をかけてくださった方々、また私たち選手が最善を尽くして試合に臨めるように、色々な面で配慮をしてくださった鹿児島の方々に感謝をしたいと思います。

大会前日は公式練習でしたが、全国各地から集まったたくさんの選手達を目の前にすると、緊張感が高まりました。

今回の大会では、予選と準決勝はどちらも四本中三本以上的に中てなければ通過することができないという一発勝負の厳しいものでした。私はずっと「中る、中る」との中で言い聞かせ、自分を信じて的前に立ち、どちらも皆中で通過することができました。

決勝も射詰めでは二本目で外してしまい、すごく悔しさはありましたが、次の六・八位順位決定戦へと気持ちを切り替えました。五人で行った順位決定の遠近競射では、六位という結果を得ることができました。決勝へと進み、待ち時間の緊張の中、山根先生が「自信を持って！」と何度も声をかけてくださり、気持ちを強く持つことができ、ても大きな力になりました。

予選から決勝まで、一本一本が中る中から中らない中へ移り決まり、今回は特に一本一本の重みというものを感じた大会となりました。目標としていた「全て中てる、優勝する」ことが達成できず悔しさも残りましたが、この悔しさを忘れず、次のインターハイでは個人団体ともに出場し、優勝を目指して頑張りたいと思います。

全国大会に参加して

浜田商業高校　弓道部　川崎遥香

私は一月十日から十二日にかけて鹿児島県、鹿児島アリーナで行われた全国高等学校弓道選抜大会に出場してきました。

四年前の鹿児島での全国選抜は浜田商業高校の先輩が出場権を獲得したにもかかわらず、東日本大震災の影響のため中止となった大会で参加できることに大いに喜びを感じ、胸をがら鹿児島に行きました。

現地の道場的前に立った時、いつもの感覚とは別物でとても不安になりました。

大会当日、招集がかかった時は思ったより気持ちと裏腹に体をきちんと使うことができ、自分では「いつも通りに弓を引いている」もりでもしても、矢は思い通りに飛ばず悔しい結果は一本も当てることができませんでした。何もできなかった自分に悔しい気持ちと恥ずかしい気持ちで一杯になりました。

このように全く結果を出すことができませんでしたが、今回の全国選抜に行けたことや得る物も多かったと思います。何よりも自分があの全国の舞台で弓を引くことができたことに感動しました。今ではまたあの舞台で引きたい、そのために総体に向けての練習も努力していきたいと思っています。

私が全国選抜に行くことができたのは浜田商業高校や他校の弓道部員の皆さん、先生方、先輩方、家族の協力と応援のおかげです。皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、総体で良い成績が残せるように頑張っていきたいと思います。これからも浜田商業高校弓道部に応援をよろしくお願いいたします。

「勝負は一瞬!!」

松江工業高校　男子バレーボール部　佐藤城

一月五日から東京で開催された全国選手権大会に島根県代表として十九年ぶりに出場しました。大会前の合宿では、本大会に出場する全国の強豪校十二校と対戦する機会を得ました。近年、全国大会で常時、上位入賞している大阪の大塚高校を筆頭に、完成度の高い三年生主体のチームとの対戦では、楽な展開のセットは一つもありませんでした。その中で大塚高校に一セット取ることができ、自信になりました。そして、どのチームとの対戦でも感じていた「一瞬のゆるみが一気に勝敗を決する！」ということでした。

この大会は、三年生主体のチームで臨みました。初戦の相手は愛知県予選で二年連続三冠の星城高校を破った愛知工業大学名電高校でした。独特の時間差攻撃を得意とするチームであったので、事前対策では「ブロックとレシーブの連携の強化に重点を置きました。直前の合宿と事前対策の成果で、終始互角の展開で二セットとりデュースまでもつれ込む大接戦となりました。特に二セット目は序盤五点差から逆転するという場面もありました。結果は紙一重の差で負け、第一セットを取ることができました。

全国大会に参加して

松江西高等学校　男子バスケットボール部　福島柾美

私たちは、今年本校創部以来、初となる「インターハイ」出場を果たしました。その会場には、名だたる強豪校がずらりと並んでおり、県内大会や中国大会とはまるで別次元の雰囲気の違う場所で私たちは地に足がついていない感じでした。初戦の相手は神奈川県代表・法政大学第二高等学校で、試合が始まってみるととても緊張しました。しかし、相手も同じ高校生であり、身体が動き、いつも通りのプレーが出来ました。そして、私たち最後は敗れてしまいました。しかし、私たち最後は敗れてしまいました。しかし、私たち再びこの全国大会に出場し活躍したいという思いや、冬に行われる「全国選抜優勝大会出場」という目標に向け部員全員が頑張ることを約束しました。そして十一月に行われる県予選では、常連校である松江東高校を破り、見事全国大会出場を決めることが出来ました。

抽選の結果、一回戦の相手は二〇一一・十二年に二連覇を果たし二メートルを超す外国人留学生二名を擁する延岡学園高校となりました。学校名を聞いた瞬間、がっかりしました。学校名を聞いた瞬間、がっかりしましたが、逆に自分たちが今まで頑張ってきたことを精一杯ぶつけてみようと思いました。大会までにある程度の高さ対策をしてきたつもりでしたが、試合が始まるとやはり以上の高さに驚きました。しかし、やる前から気持ちで負けていたと思い、やるべきことをしっかりやろうとみんなで声を出し合い試合に臨みました。ショットなどで攻められ五点差で負け、前半は八点負けで折り返しました。ハーフタイムでは一つ一つのプレイにただ自分の声をかけ、気持ちを込めるかが大事だと思いました。夏のインターハイに続き、この全国大会の経験は、これからの私たちの人生において一生の思い出となるのと同時に高校時代の目標と誇りとなると思います。ここまで私たちを支えてくださった先生方、ご声援くださった皆様方、本当にありがとうございました。

「私たちにとっての高校サッカー」

立正大学淞南高等学校　サッカー部　阪倉隆斗

まだ成し遂げていない「日本一」だけを目標に、部員全員で本気で覚悟を決め、質の高い練習に加え、超一流のアスリートも行っている厳しいフィジカルトレーニングに必死で励んできました。しかし、インターハイでは2回戦敗退という不本意な結果で終わってしまいました。私たちは自分たちの甘さはどこかに潜んでいるのか、スタッフの一つ一つの言葉の意味、日本一になるために何が足りないのかを考えました。

そして高校サッカーリーグとして最後の選手権。普段サッカーを見ることがない人たちにも注目され、一生懸命な私たちの姿が多くの人を感動させることができます。しかし、トーナメントであるため再挑戦の場はありません。勝ちたいと思うほど負けることが怖くなり、感じたこともないプレッシャーが生まれ、磨いてきたスキルもスタイルも思うように発揮できないまま、でもこの1試合を勝つために全員が我慢し、協力し、立ち向かってきました。プレッシャーの大きさを忘れてしまうことありました。うまくいけば勝つ確率は高まるかもしれませんが、うまくいけずに悔しい戦いの中で日本一になることを目指し準備してきた思いです。言い訳が許されない「発勝負の厳しさと戦い抜き、自分にも負けない、挑戦者として挑み続ける強いチームにしたいと思います。だからこそ、私たちも同じようにいやそれ以上になりたいと本気で頑張りました。しかし結果は全国ベスト8と、ずっと自分たちが思い描いていたものにはなりませんでした。これまで、私たちを支えてくださった多くの人たちに感謝の気持ちを忘れずに、最後まで全力で戦い抜きます。

全国大会に向けて!! ～がんばれ!!島根の高校生～

全国大会に向けて

松江南高校　少林寺拳法　加藤彩能

私は、三月二十一日から二十二日に九亀市で行われる全国高等学校少林寺拳法選抜大会に出場します。出場種目は、女子単独演武です。日頃の練習ではひとつひとつの動作を丁寧に確実にできるようになることを大切にしています。大会への目標は、「力を出し尽くす」です。中学三年生の時に出場をしましたが、すごく悔しい思いをしました。なので、この大会では、中学生の時よりレベルアップした演武をして悔いが残らないようにしたいです。高校生になってはじめての大会で、周りがどんなレベルで自分がどこまで通用するか分からず、不安と緊張でいっぱいですが、これまでの練習の成果を出し切りたいです。ここまで少林寺拳法を続けてこれたのは、多くの人のおかげです。部活が終わってからの精古で、「今日はつかれたから行きたくない」と思うことや、「いったん少林寺をやめて勉強に専念したい」と思うこともありました。しかし、周囲からの励ましやアドバイスのおかげで、「今日も行こう」と気持ちが切り替わりました。なので、指導してくださった先生、お互いに高めあえるような刺激を与えてくれる友人達、少林寺拳法を続けてくれる私の意志を尊重して、やりたいことをやらせてくれた家族、その他にもたくさんの人への感謝の気持ちを持って演武をしたいです。大会では、自分の力を十分に出し、経験したことや、他の人の演武を見て学んだことを持ち帰り、これからも精進していきたいです。

【全国選抜へ向けて】

安来高校　女子フェンシング部　遠藤莉央

私たち女子フェンシング部は、二年生二人、一年生一人という少ない人数で活動しています。団体戦も三人で戦うのでギリギリの人数です。

全国選抜中国地区予選会では、経験の少ない一年生の矢島を、二年生の二人でカバーできるかが課題でした。一年生も良く動いて得点を取ってくれたので二勝二敗の成績で三位に入り全国選抜の出場権を獲得できました。三人で戦い貰けたことが自信になりました。

団体戦は個人戦と違い、得点した時、失点した時のチームの雰囲気で試合の流れが変わってきます。試合中は弱気にならず声を掛け合い明るくいようと話し合った。

全国選抜までに自分たちにできることを精一杯チャレンジして試合の時に練習の成果が思いっきり発揮できるようにしたい。全国レベルは本当に高く、昨年の全国選抜では、試合を楽しみながら予選リーグを勝ち上がり、決勝トーナメントに進出するこを目標に大会までの一日一日の練習を大切に積み上げていきたい。

（三月二十日～二十二日）

「奈良県橿原市・橿原公苑第一体育館」

選抜大会に向けて

三刀屋高等学校　女子ソフトボール部　古田夏帆

私たち三刀屋高校女子ソフトボール部は、十九人で毎日元気に活動しています。

私たちは三月二十日から山口県宇部市で開催される第三十三回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会に出場します。

私たちの目標は「全国大会一勝」です。しかし、昨年秋に出場した中国新人大会では自分たちの思ったプレーをすることができず、目標を達成するには力が足りないことを痛感しました。

その後の練習ではこの大会の反省をし、お互いに意見を出し合って練習内容を工夫して、部員全員がチーム内での各自の役割を自覚して選抜大会に向けて意識を高めています。天候によって思うようにできないこともありますが、一日を大切にして練習に取り組みたいと思います。

選抜大会では各県で代表を勝ち取った強豪校が出場しますが、大会や相手の雰囲気に飲み込まれる事なく、挑戦者として最後まで粘り強くチーム一丸となって精一杯プレーしてきたいと思います。いつも応援してくれる家族、「頑張って」と温かい声をかけて下さる地域の方、毎日指導に当たって下さる顧問の先生方に感謝して目標達成を目指して頑張ります。応援をよろしくお願いします。